憲教類典

卯
66
1

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』 請求記号 卯-1

ガラス使用

憲教類典

三ノ廿一　上覽
三ノ廿二　御能
三ノ廿三　御鷹

卯
115
1

東京圖書館
門 類 函 架 號 冊
卯
一 一
一二五

国立国会図書館　　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』 請求記号 卯-1

ガラス使用

三ノ廿一 上覧
三ノ廿二 御能
三ノ廿三 御鷹

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

以書跡論
上說ニ依テ
御四時以奉
賜ヲ
一衣服襲并
四月晦

寛延二己巳年三月十日
信濃守殿侍

大月
足留守居
詰番
万石以下

明治百號勅諭

上覽ニ供シ奉ル文武官

俸給ノ減少目下長袴

着用ノ儀ハ暫ク之ヲ

大礼服ニ

布衣以上ノ

清祭清服着用

ノ事

右ハ

大礼服ニ

布衣以上ノ

清祭清服着用

ノ事

右ハ

大祭所拝

大祭ニ

参向ノ事

二月十日

寛延二乙巳年三月十日

相撲ノ節

大自在

三月十日

三ノ廿二

御能

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』 請求記号 卯-1

ガラス使用

元和四戊年年十月廿三日

一 猶来於事者

一 依之書附を以

大名ゟ

一 急度申入候猶来事者

一 御定書之旨ニ背

一 於江戸表ニ

一 御法度之儀

一 堅被仰付候

一 御定書之旨ニ

一 背候ハヽ

一 急度

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

十四年二百

元保四丁卯年六月九日

申樂ヲ初ル事

伊勢

松太

安對

土大

酒雅

一 茶之田作申ス列有
上ヲ云シ知覺
一 申樂ニ小事ヲ云ル
神前ニテ奉幣事
二 ヲ義ニシテ外不供
古法事
一 茶事ニ於テハ大ニ知足能俊
於カニテヲ史ヲ役ノ
ニテ事ヲ但ヲ史能俊ヲ

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1
ガラス使用

一於公家大名之家来
事

定

享保
公徳四年六月廿九日

公保四丁亥年六月廿日
享吉之文例代〻之御
附年寄共不用法之
思召之旨御書付
年寄之人精〻
役儀勤方宜〻
上意之趣申渡
之旨

寛文八戊申年七月廿日

猿楽法度

一道中ニ而行逢

一 [illegible] 警察官吏 [illegible]
[illegible] 事
一 [illegible] 結社 [illegible] 事
一 [illegible] 時 [illegible]
仕事
一 [illegible] 教 [illegible] 運 [illegible] 事
寛文八申年 [illegible]

延享二乙丑年三月廿日
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible] 家業 [illegible]
遠 [illegible]
[illegible] 人 [illegible]
土 [illegible]

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

延享二乙丑年三月廿三日

左近将監政
隠岐守殿

大目付

[遠]
寄合某其外諸向
連名を以被仰渡
之旨被承届候
上段の通深心得
可申聞候

右之趣御老中
御用部屋江
申聞候ニ付
為念
三月

延享二乙丑年十月

一、御普請
御本丸御殿
御修復
御見分
御作事奉行
御普請奉行
御勘定奉行
御小普請奉行
御大工頭
御作事方
御大工棟梁
御小普請方
御大工
御作事方
御大工棟梁
御小普請方
御大工
御作事方
御大工棟梁
御小普請方
御大工

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

一 旧幕府ヨリ入牢仰付候節
旧藩ニ稟申届候手続ニ
テ預或ハ仕置ノ事
一 町奉行所ヨリ御用
ニ付呼出候節ハ
上ノ事
一 旧藩ヨリ町人脇差ヲ
事

中可差出事
右ハ旧藩ヨリ見ル時ハ入牢中
変動ヲ不教ト
可差出

太政官ヨリ御布告ノ
不及申ニ人殺
申迄モ無之候
八年四月

国立国会図書館　　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

寛延二巳年十月

御鷹

来年三月中御世子様
御外出之節御道
筋之内寺社方御
先払等之儀
御免之御届
申上候事

寛延三年四月廿日御世子様御道
筋之外寺社方御先払

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』 請求記号 卯-1
ガラス使用

寛延二巳年十月

御鷹

寛永元甲子年四月廿六日

酒井雄楽氏忠世

津軽弾正大弼
南部信濃守
佐竹右京亮
岩城四郎次郎
六郷左近将監
仁賀保左近将監
酒井宮内大輔

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』 請求記号 卯-1

ガラス使用

寛永元甲子年四月十日

寛永三丙寅年

定

一 所帯奉公人之事

一 所帯奉公人之事

一 所帯奉公人之事

一 所帯奉公人之事

一 所帯奉公人之事

丙

寛永之頃
寛永十甲戌年之頃
本邦靡物之
頃ハ之頃入
寛永十甲戌年之頃
為度中人ハ注相
手ニ領ハ相応ニ
為ニ人馬ハ相
相応ニ靡ニ
之ニ
上ニ意ハ
頃ハ
津軽越中守殿
南部信濃守殿
井上主計頭殿
土井大炊頭殿
酒井雅楽頭殿

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』 請求記号 卯-1
ガラス使用

憲教類典

元徳四壬辰年十月七日

定

一所務沙汰おゐて相論
外様事教生
を入御門
一所務之儀ニ御
仍被定教生
ふるまをおゐて
所領
伊豆
ものにおゐて
所
その
村井
百四事

一教導ニ関スル事ハ
学校ニ於テ施行スヘキ
ヤノ訳ニ付テハ
ヲ以テ
ヲ
ヲ
ヲ
事

右伺ノ通ニ
ヤ

正保四年十月七日　奉行

右之通御座候間
ヤ
と御心得
ヤ

寛文七丁未年九月廿七日

覧

一公儀御定之御法度
被仰渡之趣

国立国会図書館　　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

一相手方ニ於テ本件ニ関シ仲裁人ヲ立テサセテ其事件ヲ仲裁ニ付セントスル時ハ仲裁人ヲ立テ又ハ仲裁ニ付スルノ約ヲ為シ又ハ仲裁ニ付スルノ約ヲ為シタル後ニ於テ仲裁人ヲ立テサルコトヲ約シタル場合ニ於テ仲裁人ヲ立テサルコトヲ訴ヘラレタルトキハ仲裁人ヲ立テ又ハ仲裁ニ付スルノ約ヲ為シタル後

へきまち事

一雲白き葉書ハ仮令ハ雑司ヶ谷ハ
さゝき町ハ

仕事

一雲白き葉書ハ仮令ハ雑司ヶ谷ハ
雑司ヶ谷ハ
首尾川雷雨
云々ハ
月か七月ニ
ハ

一毛糠ハ外ニ
か三月毎ニ
地主調ハ
一御黒ハ
ハ
ハ

加藤伊織殿
小野善兵衛殿
清水権之助殿
小栗孫左衛門殿
戸田七之助殿
久松右衛門殿
岡宮左衛門殿
大谷甚右衛門殿
小栗孫左衛門殿

右之通被仰渡候間、
可被得其意候、
以上

享保元丙申年九月十日

寺社奉行
松平伯耆守
戸田因幡守
中野播磨守
久世大和守
土岐丹後守

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

甲九月

右之通書付ヲ以御届申上候間
御承知被下候様ニ

享保元丙申年九月廿七日

御届之通ニ候間
御承知被下候様ニ
御老中方へ御届ニ而可被成候

申九月

享保元甲申年

覚

一 諸藩ニ而通ヲ以召抱候者ニ而
御役儀ニ而御老中方へ御届ニ
而召抱候者ニ而
御目見以上ニ而
御役儀ニ而
御老中方へ御届ニ而召抱候者ニ而
御目見以下

一 勅許無之寺社
住職之事

一 勅許無之寺社
住職之事

一 牛車大八車昇之
末社通之寺内
門前之事

一 門前屋敷之寺院
境内ニ而商売
等之事

寛保元酉年三月

一 勅許無之寺社
住職之事

一 勅許無之寺社
住職之事

一 牛車大八車昇之
末社通之寺内
門前之事

一 門前屋敷之寺院
境内ニ而商売
等之事

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1
ガラス使用

一 御法事之節

其寺院江

一 年忌大小共ニ

御文言附之事

一 御法事之節

其寺院江

御布施之事

一 御法事之節

其寺院江

御知之事

享保元申年十月十日

一 寺院衆中御条目之通

相守可申候

享保七寅年十月二日

一 寺院衆中御条目之通

相守可申候

永代寺請状之事

附 入札之事

一長屋其ほか備家国場之外見
ふるしかるまゝ取こわし之
節附申義等
之事

一居宅相建し候節隣家
堅入込不申義等
之為め間数
之事

一相手しれ不申
本体或ハ権威
いつて
ても
不申事

他所物
き家堅固
之事

一万一
ものは
病気
右
ふ

享保七寅年十月

一 居屋敷中屋敷共ニ場所ニ
而売買致し候ハヽ入札
ニ而売買可致候事

一 長屋ニ而も借屋ニ而も
其ものニ不相応ニ広き
ハ不宜候事

一 屋敷を相対ニ而譲り候
ハヽ其段奉行所へ
相届候事

一 屋敷を相対ニ而譲り候ハヽ
入札ニ而売買候ニ
而ハ無之候間其段
奉行所へ相届候事

一 組合之外ニ而家を
懸ケ候或ハ増
ニ而も
候ハヽ
其段
奉行
所へ
相届
候事

一 組合之内ニ而も相対ニ
而ハ無之候間其段
奉行所へ相届候事

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

一百一ヶ条
[illegible]
[illegible]
[illegible]
事

子十月

[illegible]
御支外四ヶ条ニ
十月晦日

[illegible]
[illegible]
[illegible]

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

卯
115
1

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1

ガラス使用

憲教類典

三ノ廿四

御霊屋

卯
115
1

東京圖書館

門	類	函	架	號	冊
		卯		一	一二五

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』 請求記号 卯-1

ガラス使用

天和元辛酉年

東京帝國大學圖書之章

帝國圖書館藏

國立國会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

天和元辛酉年

東京國立博物館

三ノ廿四　御靈屋

禁帯出　一七一三

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

元禄九丙子年四月

朱雀門ニ而日限ノ
高方石ヲ以テ請ケ
廿七日
長持ニテ朱雀
四條代ヲ請取参
廿八日
長持ニテ朱雀
高家ニ而書附
廿九日
被人ニ而中奥ニ
下ル朱雀

晦日 右ニ而ニ而ニ而
ニ而朱雀
五月
朔日
布衣以上請
勅使
朱雀
右ニ而ニ而
ニ而朱雀

覚

黒門清水口東拔屋風拔新清水
口外田口國持大名たりといえども
往来人拔留拔荷物之人馬屋敷江
入之間敷事
一火之元之儀ニ付而ハ別而念を入
とぎ之節ハ番人ニ申達し
歩外ニ而ハ一切仕間敷事
一町中ニ而ハ喧嘩口論堅仕間敷
事

諸事百姓ニ被仰付
候事
一町中ニ而ハ乗馬
ニ而乗通申間敷
候事
一町中ニ而ハ鉄炮
打申間敷候事
右之通ニ而
右ニ而ハ
右之通ニ而
右之通ニ而
右之通ニ而

元禄九子年四月日
右之書付四通共ニ
御奉行所ゟ被渡
御下知之
元禄九丙子年四月日
御香奠
一銀三拾枚
一同小判枚
六拾万石不残
三拾万石ゟ弐拾九万
九千石迄

一同拾枚
一同子枚
一同三枚
一同銅枚
一同子枚
一同三枚
一同壱枚ゟ銅枚
右之書付四通共ニ
御奉行所ゟ被渡
御下知之

元禄九百子年四月

覚

一　土方石州守殿へ御番奥勤ニ而御使者深
尾帯刀長裕為勤六時分ニ
御門ニ至リ御玄関ニ而
下乗勤ル事

一　土方石州守殿へ御番ニ而御使者深
帯刀長裕為勤九時ニ
御門ニ至リ御玄関ニ而
下乗勤ル事

一　本坊ニ而勤ル事

一　門外ニ而御使者深帯刀長裕為勤
九時より八時ニ御門ニ至リ
御玄関ニ而下乗勤ル事

本坊ニ而勤ル事

元禄九百年四月

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1
ガラス使用

元禄九丙子年五月廿日

覚

一 國持大名已下諸役人衣冠着
　 玄關より玄関公文所迄之間
　 下乗之事但於屋形之内
　 分許之事

一 勅額門より内小列居之面々
　 第中宮寺
　 門跡已下面々

一 勇諸衆
一 出羽代官
一 中大名
一 小諸衆
一 奏者番衆

右衣冠着用之下乗玄関
第より公文所まで玄関
右何も下乗之儀之者也

列居之面々

一 所〻御門番兼火之
一 諸役人
一 寺方百石以下
一 寄合
以上

元禄九子年三月

寛永二乙丑年六月十七

御宮 御名代之通表御玄関
奥御玄関中之御門共
〻御例席之通番可申事

六月七日

正徳二壬辰年四月二
天英院様御葬一條
御役之事

正徳三癸巳年四月

明治二年己巳年九月十日

唯今之　御佛殿　御堂と申來
以之前之　御佛殿　御靈屋と唱
御廟と申來
事以後
已九月十日

享保元申年四月十八日

以後共
大猷院様御代
寛永寺　御堂と唱
御佛殿　御宮殿と唱

嘉保五戊子年七月廿
一　仰各代知行雖令
　　知行之人子孫愛
　　知行之人若出
　　小笠原平四郎
　　右衛門尉
　　上野隼人

嘉保六年廿四日
一　自今以後四月十
　　論所并出證代
一　知家山門之論
　　社奉下知訖
　　業因沙弥之
一　論所之家以
　　家屋敷門
　　年

国立国会図書館　　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1
ガラス使用

一 指下山門外下馬事

一 東叡山 指上事

右御仏殿ニ昇堂ス

一 東叡山 知事

右御霊屋ニ昇堂ス

享保六辛丑年四月九日

光

享保六辛丑年四月九日

右触院様 寛永寺

知事山

文昭院様 有章院様

右御霊屋 御霊屋ニ昇堂ス

御仏殿

享保六辛丑年四月九日

戸田山博多殿

一 高井壱尺
一 無雑白紙弐張
一 印紙四方壱紙当初附
一 婚姻之節紙
一 矢倉豊次郎一言
右之通初発議ニ付
仲之口入金弐百年
大蔵院孫左衛門
山形藩之儀ニ付
去ル未年中会
未極不申候ニ付
高保吉兵衛
右之通相違
高橋三之助

享保九甲辰年三月吉日

例幣使　御書院御番衆
御名代　御書院御番衆
御名代　御書院御番衆
右之通申上候間以上

元文二巳年三月吉日

一　佐渡奉行所
一　淨圓院様　御位牌不残上野寛永寺
但　御機嫌伺　御名代　御書院御番衆
書院番中　献上物　宛所之儀
年寄中

一　五節句之儀も右同断

一　海路之儀　御家人
書院番　御家人
御小姓組
御先手
御代官
御普請役
御勘定
御勘定吟味役
御目付
御徒目付
御小人目付
御船手
御船頭
御水主
御賄方
御賄組
御賄小頭
御賄小人
御賄人足
御賄船
御賄船頭
御賄船水主
御賄船人足
御賄船大工
御賄船小頭
御賄船小人
御賄船人足
御賄船大工
御賄船小頭
御賄船小人
御賄船人足
御賄船大工
御賄船小頭
御賄船小人

延享元甲子年九月十日

本廻勅答敬
賀使等敬

一

任満の儀、
天奏院称
汗祥月
右の通
汗名代
汗参者
汗名代
汗来丸

御条丸之内并
之二月

延享三丙寅年正月九日
伊勢守殿江渡
正月十日十月十四日
常憲院様　文昭院様御祥月ニ
ニ付今日ハ
御条書渡ス

御廟ニ而
而渡ス
御条書
御年忌ニ付
御廟ニ而
御廟ニ而
右之通ニ
ス

正月

延享三丙寅年三月吉日

伊勢守殿内

深徳院様　御代

廿日

廿日

十月

上野介殿

池之介殿

内側ニ

元中

内田作

参中

池之介殿

第年寄

上野介殿

第年寄

毎月

右之通ニ而後年

延享三丙寅年三月吉日

中野大補殿内

大目付

内田作

右自七十七日御参山　御宮
御系譜之儀至今日無
御案詞之趣
但品々今至十七日無
御案届　御系譜之儀
未落着而後未山
右之通可申達旨
大納言様御意候　大御所様

寛延元戊辰年三月廿三日
加茂雪殿四役

三月廿三日

五心院様御用忌ニ
大納言様より
御霊実ニ　御名代
御所所

四月朔日

但馬守

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』 請求記号 卯-1
ガラス使用

公方様ゟ
御書院様　御名代
御霊屋ゟ　御名代
假御廟ゟ　御名代
右之通ニ而先年ゟ
六拾年

寛延元申辰年三月晦日
加賀守殿ゟ渡

三月廿七日
西丸
公方様　御名代
右之通ニ而先例有
寛延元申辰年三月晦日
加賀守殿ゟ渡

御霊屋様　御名代
假御廟様　御名代
右之通ニ而先例有

四月朔日

五心院様　御奥方様
大納言様　御年中
御名代
廿七日
二月
九日
十日

但馬守

毎月
二月　御奥方様
御名代　御年中
参中　御奥方様
大納言様　御年中
御名代

右之通可申渡候也

寛延元戊辰年四月廿
来ル廿九日増上寺
霊牌江渡ス列
大門訴松　大
有之候例日ニ　御
能ニ付申上候
但表四ツ
ニ下乗ニ
ニ付

四月廿
御客ニ

延享四丁卯年三月十六日

四月

明午七日紅葉山
大門訴松　御名代
台徳院松
大猷院松
厳有院松

四月廿

文服院様　　御書院様
玉章院様　　御長家様
大御所様　　御名代
其方共

四月十六日

延享四丁卯年四月十六日
伊勢守殿御渡

明十七日刑部少輔殿御登
御客ニ而寄合之上
御老中方へ退散之事

四月十六日

右之書付御渡し被成候
御入手

寛延元戊辰年十月廿七日
伯耆守殿御渡

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1
ガラス使用

至心祝禄　仰願
皇帝陛下聖壽無疆
皇后陛下長秋永固
一　布施以下事語ハ兩度共ニ
なし

四月廿八日

寛延元年辰年閏十月廿日
位牌寺殿ニ納

淨圓院殿仰信牌
淨安院殿禄　淨徳院殿祝
心信牌法號ハ　高光院殿禄
三仰新禄　仰名代法號兩度
皆ニ淨字ヲ用ル事ナシ

四月廿八日

寛延元戊辰年十二月十七日
宮内少輔殿より

十二月六日

来廿八日　御位牌御移
御安座
　　日光

右之書付を以被仰渡候
一　御供番之面々　御供
御供番之面々

宝暦二壬申年五月晦日
右近衛殿より
　　渡

上卿
常寛院様
有徳院様　御遷座之節

書付之通被仰渡候事
添奉行之儀

公方様　　御名代
大納言様　　御名代
御嘉例之御祝詞
公方様　　御名代
大納言様　　御名代

右之通無之候

宝暦五亥年二月十日

御奏者番衆

神尾若狭守殿
鈴木伊勢守殿
稲田平次郎殿

有馬兵部少輔様　　御屋敷

上様　　御名代
同北條安房守殿
同御前髪御祝儀
同御誕生日

右之通無之候

宝暦五亥年二月十日

御奏者番衆

神尾若狭守殿
鈴木伊勢守殿
稲田平次郎殿

有馬兵部少輔様　　御屋敷

上様　　御名代
同北條安房守殿
同御前髪御祝儀
同御誕生日

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1
ガラス使用

常憲院様　御遷座

有徳院様　御葬送

同日御書　　同日　午刻

有徳院様　御宮號被仰奉

右之通被仰奉承候　　子閏十月十九日　巳刻

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

宝暦五乙亥年二月廿五日
宮内少輔殿ヨリ渡

紀伊守山
家老ヨリ松平
遠江
四月廿一

二月廿八日 両別
方ヨリ通ス 紀伊守ヨリ
ノ通ニテ渡ス
二月晦日

宝暦六丙子年六月十日
万石以上ノ面々家督ノ音信ヲ以
御宮ヨリ勅使ヲ以テ
ヨリ之ヲ被仰渡

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1
ガラス使用

宮歴十三年未年四月六
酒井左衛門尉殿ノ使
一
四月十五日 到来ス
御宮 御条書并御
差図両天ヨリ 御条書ノ通
御名代本多伯耆守殿
下向

右之御書付ヲ頂戴ス
ル事ハ
御名代
ヘ到来ス

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1
ガラス使用

明治二百四年十一月廿五日

一 御書

台徳院様　御墨付

拝受仕候　謹而

御請申上候　以上

十一月廿五日

大目付

大目付江

御書付之趣

奉畏候　尤当番江

申通候　以上

八月廿四日

御用部屋

明治四十年三月九日

松平右京亮殿四波

御書付

御請書

明十日来廠山
大蔵院称
叢雲院称　仰雲寺
常憲院称
雲徳院称　仰雲寺
浄念院称
源徳院称　仰信解所
玉心院称

前田伊豆守

御条書之通
仰出候間
可被得其意候
以上
九月

昭和四年六月十日
松平右京亮殿
内
松平出雲守
仰出候条

御書役　織田親一
御小姓　前田伊三
御納戸　堀川要輔
御加　大友正治
牧野典之
加納章治
岡辰太郎

御奥役

右之通申渡候間此段申達候也

明治四十一年三月十日

松平右近将監殿家扶渡辺幸

一 達 甲第 号ヲ以テ
別紙写之通リ 内閣総理大臣ヨリ
申入有之候ニ付 別紙ノ通
三月

一 達書ヲ以テ別紙写之通リ
学事ニ関スル通達書ヲ廃シ
別紙ノ通リ改正ノ上
施行ノ事

明治四十年三月十三日

枢密院議長 従一位勲一等 伯爵 山県有朋殿

国債証券ニ関スル件ヲ
別紙ノ通リ改正ノ上
施行ノ事

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1
ガラス使用

惟信院様　御霊前
国中之衆寺社等ヲ
請ジ
三月十三

安永元辰年十月ニ
東叡山　御位牌奉
御移被遊候ニ付
一
元中典厩宅ニ於テ
年
玉国ニ色ニ而ヲ
年

一
酒狂言家話ニ出ル
芙蓉ト曽我ノ対面ヲ
年狂言ニ用　御物
語ニ年ヲ及テ
一
常ニ服中ニ而ハ

嫁ニ向　御機嫌ヨ
十月

安永二巳年十月廿六

来ル年三月廿四ヨリ
御霊屋ニ
大納言様　御参詣
大小姓衆　大目付、
御供ニ紀伊山表

仰　公方様ヨリ厳山増寺
御霊屋ニ　御参詣ニテ来ル
来延ノ時ニ　御参詣
御参先　御参詣四日ニ
御泊ノ事

一　来ル年三月ヨリ来ル
心観院様　御霊屋ニ
大納言様　御参詣ニ
一　来ル年ノ来厳山

五日祝祭　御霊屋ニ
大納言様　御名代
二月廿六日
御祥月斗
御廟所ニ　御名代
二月廿九日　豊後守
参中
三月廿日
御遠方ニ而先ニ御
逝去ニ付

申三月

安永五丙申年三月廿八日

来丙年ハ御三年
惣信牌様
大納言様　御名代
三月十二日

各庁
九月十日　　土方
右　御名代妻渡雪本勤に而渡
右之通御雪下ニ御座候ニ付
申上候
以上

安永八己亥年六月廿四日
依御雪服ニ渡

一　御家中
御客　外迄客ニ参ル
外迄客ニ而
御清メニ参ル

一　御供ニ付
言上ニ而御届ニ
右之通御雪ニ御座候ニ付

大目付
小目付ニ

一　御家中
御客　外迄客ニ参ル
外迄客ニ而
御清メニ参ル

一　御供ニ付　御名代ニ
言上ニ而御届ニ　御名代ニ有之参ル
右之通御雪ニ御座候ニ付

大目付
小目付ニ

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1
ガラス使用

安永八巳年十月十日
石見守殿御渡
一 書付壱通
御宮 御霊屋之儀
正遠守
正遠
少将殿御屋敷之儀
御城
御屋敷
御屋敷
御屋敷

十月十七
右之通年分御届之旨
可申上候
以上

安永八己酉年十月十七
重田貞次郎殿

一例年之通十七日ニ
御宮参 御案内
御家来衆
御供之者
御宮 両通宛来候
御案内 御案内状
以前之通ニ可申遣候
以上

十二月

安永八己酉年十二月十七

一 紀泰山
御室　西通寺舟石十二月十八日
申ノ刻ヨリ　西通寺ヘ乗
一 酒ヲ出ス　御酒ヲ出ス
一 盃九ツ　御名代言上差
出ス時分ヨリ法会ヲ
大目付
目付ヘ

一 御茶請ヲ出ス　御茶請ヲ
前ヲ通
右ノ通ヲ酒ヲ高ヘ
心ヲ通ヲ通ヲ
十二月

安永八己亥年十二月十八

右之書殿下渡

一 紅葉山

御宝 両通宝未満
銭弐百十貫文御入用
御系譜之内当時御会
御役御高 御拝殿高
右弐尺五寸 御系譜
御供之面々并役者共
御供之節

右勤
方之通可申候以上
安永八亥年十一月

十二月十日

安永八亥年十一月十九日
右之書殿下渡

一 紅葉山

御室の御後ニ来
ニ近き室ニ有時ハ御代ニ
言家ニ有ル言語同
着用婦子ニ着ル言ニ
語ル言語ニ布ニ
賀ル日ニ時ハ用ル
ル事ニ

但シ布ニ幼キ子ニ月着ル事
宅ニ彼ニ於ル御ノ中ニ

一 右之通万石以下之面々ニ而ハ文月着
之中宅ニ彼ニ於ル御ノ中ニ
一 五ツ囲ニ而ハ小紋
ニ

右之通ニ而ハ九月ハ
ニ而ハ

十二月

安永八己酉年三月廿四日

一 明日 御祝儀

御轎寄口ニ而

御先供列ニ而

御宮 御案内申上

右御礼 御目録

御菓子御肴

当番之御小姓

年号之部 九月

晃

今度於御寺口上

両人町年寄門前ニ而速使者

國持大名ならびに
等席の服にて外
天しるさず簡略
従来一切停止
一 山門ならびに國持大名と
武人等服にて
ず等おなじ
人ならびに
一 普通僧侶当来寺堂
所作降し

一 ふ混乱相ならんこと
事

一 心得

一 来九月

一 万石以下諸侯
堂作事ならびに
下馬札
一 万石以下諸侯
之儀八

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』 請求記号 卯-1
ガラス使用

年号之部九月

一　覚

一　初夜後晨朝までは案詰之事一切
　　下女係申事

一　朝六時より晩六時迄玄関
　　之事

一　朝六時より門を閉き晩六時門
　　戸を下閉

一　御城女中方案詰之座を裏口
　　より下女出入共案詰一切受
　　申事

一　本堂台所之方ニ而案詰被
　　人之外出入一切無用たる事
　　之

九月

右之年号之部ニ記載之事項
入墨候ものニ毎晩書載相勤
年号

卯
115
1

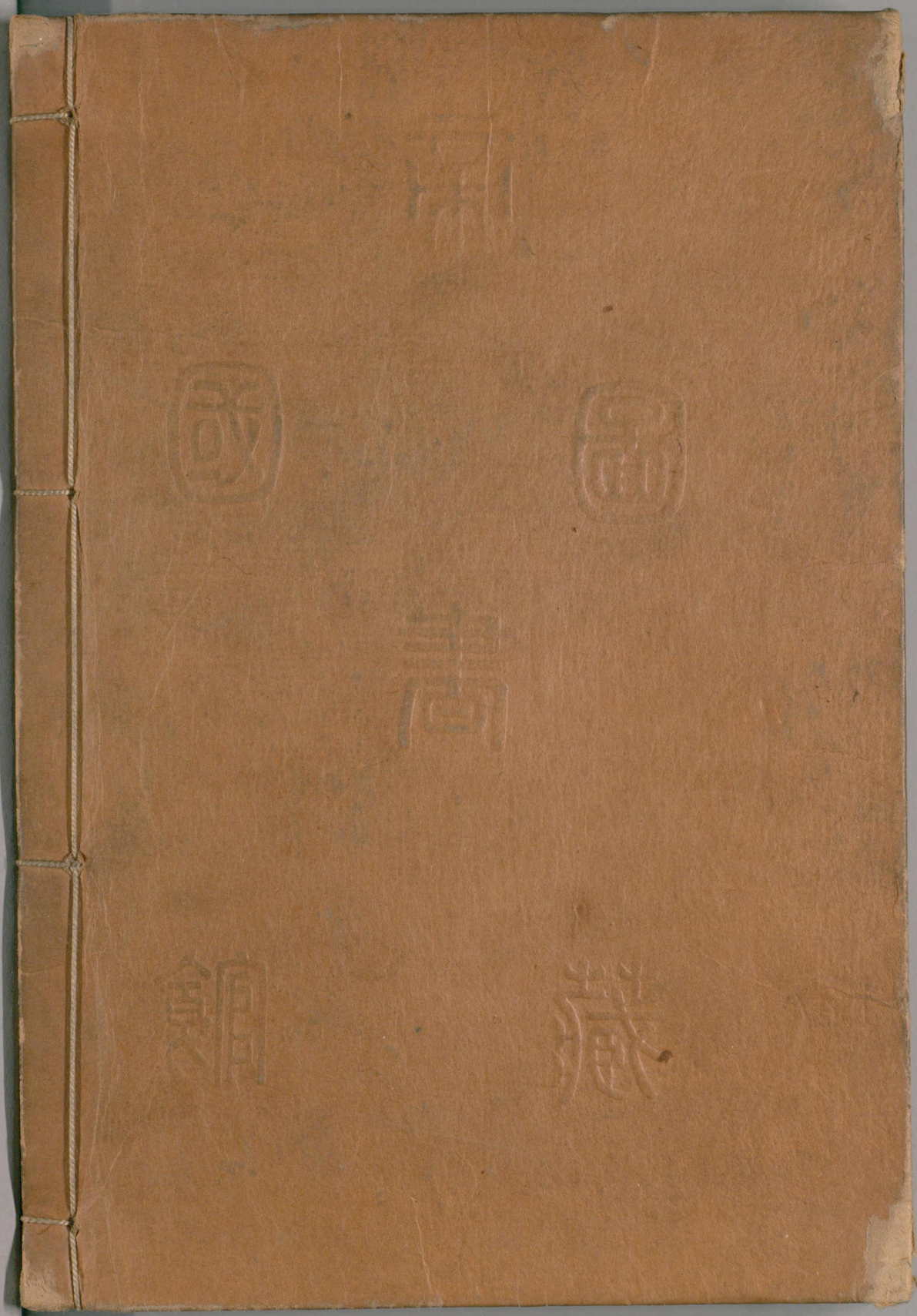
国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1

ガラス使用

卯
66
1

国立国会図書館　　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用